

## 全学の閉鎖にあたって

明 治 大 学  
明治大学短期大学

○他大学の共闘学生を含めた占拠学生による本学内の破壊状態は、単に荒廃と呼ぶには余りあるほど惨たるものがあります。これまでに機会をえて学内に入り、実際にこの惨状を目のあたりに見た教職員の声を総合すれば、その荒廃の程度は、われわれの予想をはるかに上回るものであり、いずれ詳細な数字の発表もあると思いますが、被害総額はすでに数億円にのぼるものともいわれています。

特に大学院の破壊は4階までにおいて極めて甚だしく、図書の大半は今後の使用が危ぶまれるものとなり、医療設備さえもその損傷は少なくない。もちろん各号館内の諸設備の破損の状態もみるに耐えないものがあります。

これらを修復し、事務機能を回復し、とりあえず授業を開始するまでに要する時間は、具体的な今後の教務関係・法人関係のスケジュールをまたねばなりません。なお、最低2～4週間を要するものと考えられます。

○10月を、11月の佐藤訪米を阻止する運動の蜂起の月とする「全共闘」のスケジュールは、ほぼ連日に及び、特に、いわゆる「赤軍」を中心とする戦闘的集団は、10月10日を「神田戦争」の日とし、「パルチザン」による「ゲリラ戦」を企図しています。これはひとり「赤軍」のみの計画とは考えられず、いわゆる「全国全共闘」なども、ほぼこれに呼応する運動を展開するものと考えられています。かれらは、神田を「唯一の拠点」として、あらゆる暴力的行動によって、これを死守することを考え、かつこれを広く呼びかけています。

このまま放置すれば、本学は再び三たび、そのための拠点と化し、去る9月30日を上回る騒乱のとりでとなることは明白であります。そうなれば、本学の被害は倍増し、さらに本学周辺の市民生活に与える不安と実際の被害は前回は上回るものと予想されます。大学の社会的責任の見地からもこのまま放置することは許されないものと考えられます。

○さる10月4日、八幡山グラウンドで全教職員・学生の意思統一をはかるため開催した全学の集會も、「全共闘」系の学生たちの激しい妨害によって、正常に行なうことができませんでした。ことに他大学の学生集団の乱入は事の重大さを示すものであり、大学としては何らかの自衛処置をとらなければなりません。

このような最近の状況をふまえて大学はやむをえず、当分の間、全学を閉鎖し休校とする決意をした次第であります。

教職員・学生諸君はこの緊迫事態を十分認識し、大学の処置を了承して、1日も早い正常化にご協力ねがいます。

以 上